



おちほ

第37号 平成12年6月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

落穂寮竣工式



晴天に恵まれた三月六日、ついに竣工式が行われました。男子棟、女子棟が共に新施設としてのスタートの日です。思えば工事が始まった時からあつという間の完成でした。色々な人達の協力、援助があったの竣工式でした。当日は各施設の方々や、工事に携われた方々、保護者の方々などたくさんの方が参加して下さいました。しかし寮生さん達にとっては、環境の変化が著しく、とても大変な時期もありました。竣工式を終えて、寮生さん達も落ち着いた生活の場ができました。最初は戸惑う所も見られました。少しずつ生活に慣れてきている様に見られます。むしろ職員の方が毎日、毎日、棟内を走り回っています。職員も一日も早く生活のリズムを作って、寮生さんと接していけたらと思っています。また今年度から落穂寮は児童施設から成人更生施設となり生まれ変わりました。建物も新しくなり、西暦二千年を迎え、そして落穂寮五十周年と今年度は色々な節目の年になります。寮生さん、職員も楽しい一年になるようにしていきたいです。

昔々今ふく

運動場整備に汗を流してくれました
大野克二君ありがとうございました

理事長 増田正司

石部に移る事前踏査のとき、阿星山系の赤松山にはいった。ガサ原をふみわけ予定地になつて四方見わたし、とても住めそうにもないと思つた。狐や狸がとんで出てきそうだ、そういえば移転間なしの夜ふけ狐が「ぎやぎや」と鳴き

驚かされた。松の大木が切られ一変した山あい

田畑に流れ、近所迷惑とすいぶん非難された。移転後10年間はその対策におわれ、補修や補強に寮内

総動員の土木工事に明け暮れした。粘土質の運動場は、雨でぬかるみの池になり、泥水が崖崩れをおこし道路を埋め、その後始末に寮内だけの力では手にあまり、保護者会のみなさんや隣接の養護学校の先生方に援助してもらつた。

スポーツマンの本田憲生君の指導で、運動場の地下下に縦横に溝を掘ってグリ石を埋めこみ、外周にU字溝をめぐらし、山砂をダン

プカーで何杯もいれた。寮生も職員も連日きつい土木工事だった。しかし一旦雨がふると所々に水溜りができる。本田君は手作りの整備具を作り朝夕整地にはげんでくれた。

大野克二君がいつの頃からか、本田君の手ほどきをうけ、重たい整備具をひっぱり周一〇〇mほどのグラウンドを角から角まで均し作業を手がけるようになった。顔中大汗をかいてがんばる姿が毎日



▲作業熱心な大野さん

見られた。その仕事は彼の日課の一つになり、陽盛りの夏の暑さも酷しい寒さの冬の風のなかも黙々と続けられた。ほかの者が道具に触れると口をとんがらせはげしく抗議のゼスチャーをした。雨で外に出られないといかにも残念そうに空をみあげしよ

彼の毎日の精進のお蔭で、みるみる美しくなつた運動場で秋に盛大な親子合同運動会が催された。両親を迎えてうれしそうな彼は大満足だった。そして美しくなつたグラウンドを整備したことを報告したにちがいない。

湖北地区に新しい施設ができたころ、この運動場を去りがたく退寮し家に帰っていった。

克二君ありがとう。健康で明るい毎日でありますよう祈っています。

昔々今ふく

(2000年5月9日)

隠し味で行こう

寮 長 山下陽一

五十年前と今

二〇〇〇年四月一日、落穂寮は重い知的障害を持つ児童の入所施設から成人の更生施設に転換しました。創立以来一貫して実績を重ねてきた五十年の節目に感慨を深くしています。

落穂寮は、敗戦直後創設された近江学園の知的障害の重い子どもたちの生活グループ「さくら組」十三人が、母体の近江学園から分岐して始まりました。今落穂寮が児童施設から成人施設へ衣替えしなればならなかった理由を考えると、五十年前の近江学園が抱えていた問題と共通したものがあつたのではないかと思えます。

「糸賀一雄著作集」の中に五十年前の椎の木会と落穂寮の発足について記されていますが、創設の趣意として重い障害を持つ子が児童福祉法に規定されている年齢制限十八歳に達した後は「一体どうなるのだろうか」という心配の中から「その生涯が保障される」施設が必要である、として生まれま

した。

現在生活をしている寮生の様子を考えると、知的障害の重さもさることながら、行動障害の対応の難しさを考えさせられ、創立当時と同じようにこの人たちはこれから先「一体どうなるのだろうか」という心配があります。

五十年前から比較すると福祉制度が厚く整備され、障害の重い人たちが自宅で成長し出身地域で活動できるようになりつつありますが、落穂寮に入所している人たちの将来はどうなっていくのでしょうか。

理解の難しさ

五月一日、近隣施設合同で毎年恒例の氏神祭で一キロ先の地元の白山神社に神輿をつくって参詣していますが、その道際に色鮮やかに咲いているパンジーやチューリップなど季節の花々が植え込まれています。ある寮生にとってはこれがいぶんおおいしそうに見えるらしく、職員の手を振りほどきむしり取って口にいれようとします。

また、散歩の途中民家の大屋根にあつという間によじ登ったりするなど、たくさんの地元の人々にご迷惑をおかけしているのですが、その行動の原因がつかめず対応が非常に困難な寮生たち、しかもそれぞれ「粒ぞろい」のひとつの対応に腐心しています。

また、自閉傾向のあるひとたちが多数寄り集まって生活している上に、青年後期に達した人たちの特有な自己意識の成長からもたらされる行動の現れなど、落穂寮のいままでの体験の蓄積を素にしても解決しにくいことがたくさん起きています。そのような中、私たちは彼らの行動に対して決定的な対応が見つけられないまま試行錯誤を重ねていますが、すこしでも有効な働きかけの接点を見つければ努力が続けたいと思います。

固執性が極めて強い人たちが集団で生活しています。改築により永年住んでいた場所の様子がまったく変わりました。また同じ職員が一貫して対応すると言いますができません。精神科の先生たちによりますと固執性に効果ある処方箋はないといわれています。ただし、固執性の背景になつているストレスの原因を除去したり軽減することにより、固執性の強さは変わるようになるようです。

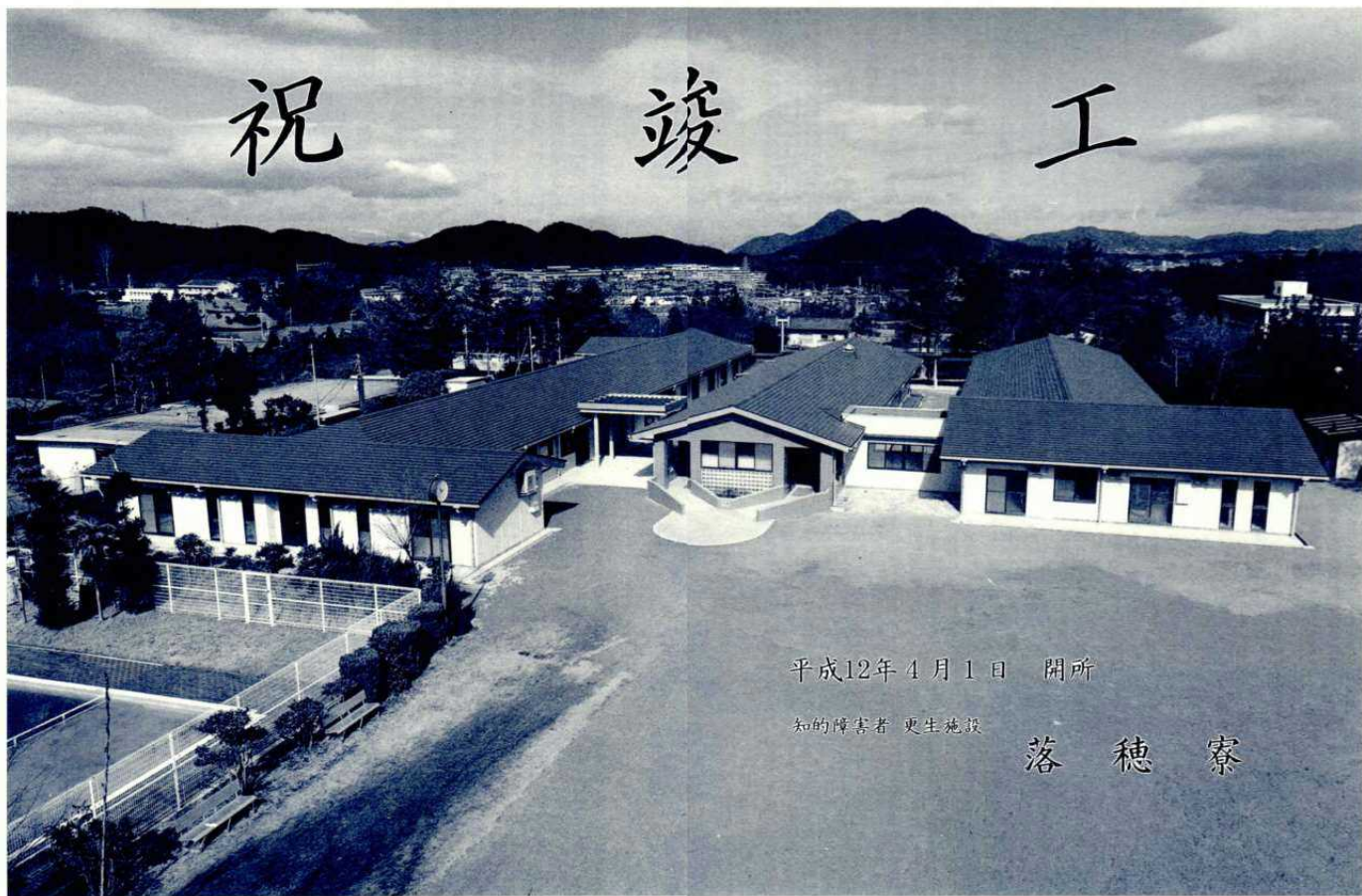
また、落着かず絶えず動き回る行動を示す人たちがいますが、この障害をもっている人たちは神経伝達物質が一般より多量に分泌されたり、その物質を受けるレセプターの数が多くことなどによって自己抑制ができてにくい場合もあるらしく、この症状の治療には精神科の先生に相談しながら対応を考えなければならぬでしょう。

隠し味でいこう

わたしたちの施設で求められることは、この人たちが行動障害を持ちながら自分らしい生活を送るために効果的な支援を提供することだと思えます。

地域福祉・在宅福祉が充実されつつある今、入所施設は時の流れに沿わず歴史的役割を終えていると各方面からの声が聞こえます。しかし、右に述べたところから落穂寮は生活施設の維持を主張して新しい施設に改築しました。現実的に障害のある人たちが家庭の負担のみによる生活は限界がある例が増えています。その中で在宅福祉を支えていくうえにおいて生活施設は「隠し味」として欠かすことができない役割があるはずであり、そのときに求められる支援にどう答えるのか、生活施設の在り方を考えて行きたいと思えます。

祝 竣 工



平成12年4月1日 開所

知的障害者 更生施設

落 穂 寮



松尾 隆浩

はじめまして、今年の4月から落穂寮で働いている松尾隆浩です。今年の五月で二十七歳になります。新人としてほんのりと年寄りですが、まだ若いつもりです。滋賀県の隣の岐阜県からやって来ました。たが、学生時代京都に住んでいたこともあり、再び関西地方で暮らせるということで、内心密かに喜んでいます。趣味は読書と映画鑑

賞等々といったところです。

さて、落穂寮で働き始めて約一ヶ月程経ちましたが、まだまだ分からないことばかりで不安な毎日です。以前にボランティア活動を通じて、知的な障害を持つ子どもさん達と一緒に活動していた事があったのですが、福祉施設で実際に働いておられる方と話をする機会があり、こんなことを言われました。ボランティアの人からは一番表面のきれいな所以外はなかなか見えない。親御さんや、施設の職員の方は、裏側の見えな所で、大変な苦労をしているんだよ。この時は大して深く考えませんでした。今はこの言葉の意味を重く受け止めています。やはり寮生さんの生活に日常的に関わっていく事は責任の伴うことです。まずは「不安な毎日」と書きましたが、これと同時に寮生の方々が私を見て感じていることだと思っています。この不安を早く払拭する為に、保護者の方、先輩職員の方寮生の皆さんから学ぶことを学んでいきたいと思えます。これから色々と御迷惑をおかけする場面があるかと思いますが、よろしくお願ひします。

井上 かおり

はじめまして、四月から落穂寮の一員となりました井上かおりです。私の自己紹介からさせてもらいたいと思います。私は、この三月にキリスト教社会福祉専門学校を卒業したばかりの二十歳です。落穂寮にはキリスト教社会福祉専門学校を卒業した先輩も沢山おられるという事で、その先輩に早く近づけるよう頑張ろうと思っています。

私の実家は大阪府にあり、まず環境が変わったこと、そしてこれまで学んだ立場が職員という立場に変わったということ、今は環境の変化に対応して、今この中で精一杯ですが、一カ月経ったという事で、気を引き締めなければと思っています。一カ月経った今、落穂寮に来てすぐと比較すると生活の流れは徐々に把握できるようになってきました。たが、寮生さんへの対応等についてはまだまだ解らない事ばかりで寮生さんや職員の方には、大変ご迷惑をおかけしています。一日も早く仕事を覚え、より多く寮生



さんと関わることで自分自身も成長していきたく思っています。今回、担任という大役を受け、職員の責任感をひびひしと感じていますが、何より寮生さん、親御さんという事で寮生さん、親御さんに不安を抱かせないように努めています。これから皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

ニューフェイス紹介

女子棟

中村 富実子
4月より落穂寮の女子棟で働くことになりました。中村富実子です。よろしくお願ひします。

今年の3月に華頂短大の社会学部を卒業しました。短大では障害者や老人、児童福祉というものを色々勉強しましたが、約1ヶ月仕事をしてみても、授業と現場で

は全く違うなと改めて思いました。違いをかみしめながら、これから、一生懸命にがんばりたいです。仕事をしてみても、毎日が同じ様です。反対にいろいろな不安も持っています。今持っている不安が少しでも減ればいいと思っています。これから、がんばりたいと思っています。

仕事で、今は全てやっています。なのですが、またバスケットボールを始めたいと思っています。基本的には体を動かすことが好きなので、運動が大好きです。水泳も一応できるし、サッカーとかスポーツは一応一通りはできてると思います。スポーツの中でもバスケットボールが大好きで、これは、ずっとやっていきたいと思っています。スポーツ大会も大好きなので、スポーツ大会とかあれば私はすぐはります。

と、こんな私ですが、何事にも一生懸命がんばりたいと思いますので、これから、よろしくお願ひします。



千代 佳朋里
4月から働くことになりました。千代佳朋里もしろがはりです。まだ女性陣に配属になりました。まだまだ一度にたくさん覚えることがなくて、はならない毎日ですがバニックです。早く仕事を覚えてしまいたいと思います。よろしくお願いします。

新人紹介ということで何を書けばよいのか迷いましたが、私の趣味など書こうかと思いましたが、やっぱり一番は山です。やっぱ、高校時代山部に入って、お祭り、たたくキャン山を登りました。山に出ることが好きです。最近、山へは2年程行ってません。山へ行って良かったら休みの日に声をかけてやってみよう。一緒に山へ出掛けよう。今の時期は最高です。天気の良い日に行けたらいいなと思っています。あとは、ピアノくら

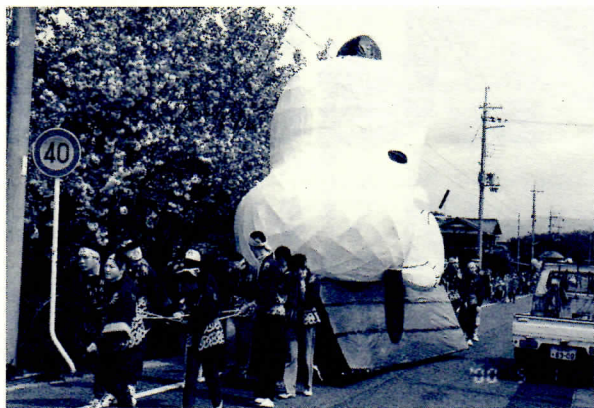


です。昔は習っていました。今は、自分が弾きたいと思うものが弾けています。仕事が始まってそれもなくなくていいんですが、何も弾けなくなってしまう感じが、続けていきたいと思っています。最後に、私はおとなしうに見えますが慣れるとよくしゃべるので声をかけて下さい。これからよろしくご指導下さいませよう、お願ひ致します。

氏神祭

5月1日氏神祭本番の日は、天気予報から雨が心配されたのですが、その心配とはうらはらに当日はよい天気に恵まれました。

今年のみこしは巨大なスヌーピー。赤い屋根の上ののんびりと寝っ転がって、ウッドストックをおなかに乗せている本当に愛らしいスヌーピーです。しかし、あまりにも大きくて、落穂坂を道いっばいに広がって前進したり、途中鳥居にひっかかりそうになって強行突破した



り……。危なっかしい場面は多々ありましたが、皆で力を合わせてみこしをかつぎ、無事白山神社に着くことができました。そして、神社で今年一年の無事と健康を願いました。寮に戻ると、皆が楽しみにしている昼ごはん。開寮記念日でもあるこの日は、よそ行きの服に着がえ、五年勤続者である青木先生と阿部先生の表彰式を行



いきました。そして、大きな拍手をした後いただきませすをしました。メニューは江戸前寿司とエビフライという御馳走で、誰もが大満足だったことでしょう。

今年初め、世界中で愛されてい



るスヌーピーを50年間描き続けたチャールズ・M・シュルツ氏が亡くなりました。しかし、スヌーピーはこれからも世界中の人々に愛され続けることでしょう。落穂寮も今年50周年を迎えます。共に50歳。スヌーピーのようにおちほも大勢の人々に愛され続けたい、と思います。そして、寮生さんのすてきな笑顔が多くの人に届きますように。

最後に……。見に来て下さった方々、本当にありがとうございました。

泉

▽更生施設落穂寮が開所し、本格的に新体制が動き始めました。新しく四名の女子寮生も加わり、五十名の寮生と十六名の現場職員、寮長を含む四名の事務職員、栄養士含む五名の炊事職員、そして新たな職種の看護婦一名の総勢七十六名での出発です。歴史ある落穂寮ですが、一年目のつもりでフレッシュに行こうと思っています。

▽今年で落穂寮も五十周年を迎えることになりました。これまでの歴史は、これからの歴史に比べものにならない程の変化と重さと厳しさと暖かさがあったのではと思います。良いものは、これからもずっと大切に守り続けていきたいと思えます。

木こ 言葉

守備範囲という言葉がある。広い者もいれば狭い者もいる。しかしプロの世界では後者が選ばれる訳はなく、その世界では生きてゆけない。ましてや人命を預かる仕事であればなおさらの事。心の手を大きく広げ、こぼれる隙間がないよう、お互いの守備範囲が重なるようにしたいものである。